



C コマンド

この章では、コマンド名が C で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

check logflash

compactFlash メモリ カードをチェックするには、**check logflash** コマンドを使用します。

check logflash [bad-blocks]

シンタックスの説明	bad-blocks	(任意) compactFlash メモリ カードの不良ブロックを検出します。
デフォルト	なし	
コマンドモード	Any	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者	
コマンド履歴	リリース 4.0(3)	変更内容 このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは不要です。	
例	次に、compactFlash メモリ カードをチェックする例を示します。 switch# check logflash	

checkpoint

ロールバック チェックポイントを設定するには、**checkpoint** コマンドを使用します。チェックポイント ファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

checkpoint {*name*}

no checkpoint *name*

シンタックスの説明	<i>name</i>	(任意) チェックポイント ファイルの名前。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。
------------------	-------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	Any
-----------------	-----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン チェックポイント ファイル名を指定せずに **checkpoint** コマンドを実行すると、**auto-x** (x は無名のチェックポイント ファイルを作成するたびに増分される 10 進数) という名前のファイルが作成されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、ロールバック チェックポイントを設定する例を示します。

```
switch# checkpoint stable
switch#
```

次に、チェックポイント ファイルを削除する例を示します。

```
switch# no checkpoint stable
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear checkpoint database	チェックポイント ファイルの内容を表示します。

clear checkpoint database

データベース内のチェックポイント ファイルをすべて削除するには、**clear checkpoint database** コマンドを使用します。

clear checkpoint database

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード Any

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、チェックポイント データベースを消去する例を示します。

```
switch# clear checkpoint database
Processing the Request... Please Wait
..... Done
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show checkpoint	チェックポイント ファイルの内容を表示します。

clear cores

コア ファイルを消去するには、**clear cores** コマンドを使用します。

```
clear cores [archive]
```

シンタックスの説明	archive (任意) logflash ファイル システム上のコア ファイルを消去します。						
デフォルト	なし						
コマンド モード	任意のコマンドモード						
サポートされるユーザ ロール	ネットワーク 管理者 VDC 管理者						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(1)</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。		
リリース	変更内容						
4.0(1)	このコマンドが導入されました。						
使用上のガイドライン	コア ファイルに関する情報を表示するには、 show system cores コマンドを使用します。 このコマンドにライセンスは不要です。						
例	次に、コア ファイルを消去する例を示します。 switch# clear cores 次に、logflash ファイル システム上にあるコア ファイルを消去する例を示します。 switch# clear cores archive						
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show system cores</td> <td>コア ファイル名を表示します。</td> </tr> <tr> <td>system cores</td> <td>コア ファイル名を設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show system cores	コア ファイル名を表示します。	system cores	コア ファイル名を設定します。
コマンド	説明						
show system cores	コア ファイル名を表示します。						
system cores	コア ファイル名を設定します。						

clear flow exporter

Flexible NetFlow フロー エクスポートの統計情報を消去するには、**clear flow exporter** コマンドを Any モードで使用します。

```
clear flow exporter {name exporter-name | exporter-name}
```

シンタックスの説明	name	フロー エクスポートの名前を指定します。
	exporter-name	既存のフロー エクスポートの名前

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード Any

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **clear flow exporter** コマンドを使用するには、事前に、エクスポートを使用して Flexible NetFlow によるトラフィック モニタリングをイネーブルしておく必要があります。

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー エクスポートの統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear flow exporter name NFC-DC-PHOENIX
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear flow exporter	エクスポートの統計情報を消去します。
	flow exporter	フロー エクスポートを作成します。
	show flow exporter	フロー エクスポートのステータスと統計情報を表示します。

clear flow monitor

Flexible NetFlow フロー モニタ、フロー モニタ キャッシュ、またはフロー モニタ 統計情報を消去し、フロー モニタ キャッシュ内のデータを強制的にエクスポートするには、**clear flow monitor** コマンドを Any モードで使用します。

```
clear flow monitor {name monitor-name | monitor-name} [[cache] [force-export] | statistics]
```

シンタックスの説明

name	(任意) フロー モニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	既存のフロー モニタの名前
cache	(任意) フロー モニタ キャッシュ情報を消去します。
force-export	(任意) フロー モニタ キャッシュ統計情報を強制的にエクスポートします。
statistics	(任意) フロー モニタの統計情報を消去します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

Any

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

clear flow monitor コマンドを使用するには、事前に Flexible NetFlow モニタをイネーブルにしておく必要があります。

clear flow monitor *monitor-name* **cache**

このコマンドはフロー モニタ キャッシュ内のすべてのエントリを消去します。キャッシュ内のエントリはエクスポートされ、キャッシュ内に格納されていたデータは失われます。



(注)

消去されたキャッシュ エントリの統計情報は保持されます。

clear flow monitor *monitor-name* **force-export**

このコマンドはフロー モニタ キャッシュからすべてのエントリを消去し、Flow Monitor に割り当てられたすべての Flow Exporter にエクスポートします。これにより、CPU の使用率が一時的に増大します。



(注)

CPU の使用率が一時的に増大するため、**clear flow monitor** *monitor-name* **force-export** コマンドは慎重に使用してください。



(注) 消去されたキャッシュ エントリの統計情報は保持されます。

clear flow monitor *monitor-name* statistics

このコマンドは、現在の Flow Monitor の統計情報とキャッシュ エントリを消去します。



(注) [Current entries] 統計情報はキャッシュ内のエントリ数を示すものです。このコマンドによってキャッシュは消去されないため、[Current entries] 統計情報は消去されません。

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報とキャッシュ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear flow monitor name NFC-DC-PHOENIX
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報とキャッシュ エントリを消去して、強制的にエクスポートする例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX force-export
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタのキャッシュを消去して、強制的にエクスポートする例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX cache force-export
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX statistics
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear flow monitor	フロー モニタをクリアします。
flow monitor	フロー モニタを作成します。
show flow monitor	フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

clear logging ip access-list cache

Optimized ACL Logging (OAL; 最適化された ACL ロギング) キャッシュ内のすべてのエントリを消去し Syslog に送信するには、**clear logging ip access-list cache** コマンドを使用します。

clear logging ip access-list cache

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード Any

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、OAL キャッシュからすべてのエントリを消去し、Syslog に送信する例を示します。

```
switch# clear logging ip access-list cache
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging ip access-list	IP アクセス リストのロギング ステータスを表示します。

clear logging logfile

ロギング ファイルからメッセージを消去するには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

clear logging logfile

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード Any

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、ロギング ファイルからメッセージを消去する例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging logfile	ローカル ログ ファイル内のログを表示します。

clear logging nvram

Nonvolatile RAM (NVRAM) ログを消去するには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

clear logging nvram

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード Any

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、NVRAM ログを消去する例を示します。

```
switch# clear logging nvram
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

clear logging onboard

永続的なログ内の Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) エントリを消去するには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

```
clear logging onboard [counter-stats] [environmental-history] [error-stats] [exception-log]
                    [interrupt-stats] [module num] [obfl-log] [stack-trace]
```

シンタックスの説明

counter-stats	(任意) OBFL カウンタ統計情報を消去します。
environmental-history	(任意) OBFL 環境履歴を消去します。
error-stats	(任意) OBFL エラー統計情報を消去します。
exception-log	(任意) OBFL 例外ログ エントリを消去します。
interrupt-stats	(任意) OBFL 割り込み統計情報を消去します。
module num	(任意) 特定のモジュールの OBFL 情報を消去します。
obfl-log	(任意) OBFL (boot-up/uptime/device-version/obfl-history) を消去します。
stack-trace	(任意) OBFL スタック トレース エントリを消去します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

Any

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(2)	counter-stats キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、OBFL 環境履歴エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
switch#
```

次に、OBFL エラー統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard error-stats
switch#
```

次に、OBFL 例外ログ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
switch#
```

■ clear logging onboard

次に、OBFL 割り込み統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard interrupt-stats
switch#
```

次に、特定のモジュールの OBFL 情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard module 2
switch#
```

次に、OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
switch#
```

次に、OBFL スタック トレース エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hw-module logging onboard	エラータイプに基づいて OBFL をイネーブルにします。
show logging onboard	オンボード障害ログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード Any

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、現在のロギングセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear logging session
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging session	ロギングセッションステータスを表示します。

clear ntp session

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションを消去するには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

clear ntp session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、NTP セッションを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear ntp session
```

clear ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) 統計情報を消去するには、**clear ntp statistics** コマンドを使用します。

```
clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	all-peers	すべての NTP ピアの統計情報を消去します。
	io	IO 統計情報を消去します。
	local	ローカル統計情報を消去します。
	memory	メモリ統計情報を消去します。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、すべての NTP ピアの統計情報を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear ntp statistics all-peers
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

clear nvram

Nonvolatile RAM (NVRAM) を消去するには、**clear nvram** コマンドを使用します。

clear nvram

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、NVRAM を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear nvram
```

clear platform flow ip

NetFlow ハードウェア IPv4 エントリを消去するには、**clear platform flow ip** コマンドを使用します。

clear platform flow ip [*type*] [**force-export**] [**module** *mod-num*]

シンタックスの説明	
<i>type</i>	(任意) 消去するエントリのタイプを指定します。有効な値については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
force-export	(任意) 消去したデータをコレクタに強制的にエクスポートするように指示します。
module <i>mod-num</i>	(任意) モジュールを指定します。モジュール番号の範囲は、使用しているシャーシによって異なります。

コマンドのデフォルト設定 エントリのタイプを省略すると、すべてのタイプのエントリが消去されます。

コマンド モード Any

サポートされるユーザーロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、消去したデータをコレクタに強制的にエクスポートするように指示する例を示します。

```
switch# clear platform flow ip forced-export
switch#
```

次に、モジュールの NetFlow 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear platform flow ip module 2
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	flow exporter	フロー エクスポートを作成します。
	clear flow monitor	フロー モニタをクリアします。
	flow monitor	フロー モニタを作成します。
	show flow monitor	フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

clear session state name

セッションの状態情報を消去するには、**clear session state name** コマンドを使用します。

clear session state name *name*

シンタックスの説明	<i>name</i>	セッション名。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
------------------	-------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	Any
-----------------	-----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	--------------------

例	次に、コンフィギュレーションセッションの内部状態を消去する例を示します。 switch# clear session state name myACLs
----------	--

関連コマンド	コマンド	説明
	show configuration session	コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示します。

clear system reset-reason

デバイスのリセット理由履歴を消去するには、**clear system reset-reason** コマンドを使用します。

clear system reset-reason

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、デバイスのリセット理由履歴を消去する例を示します。

```
switch# clear system reset-reason
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system reset-reason	デバイスのリセット理由履歴を表示します。

collect counter

フローの確認されたバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、Flexible NetFlow フロー レコードのカウンタ値（バイト数またはパケット数）を収集するには、**collect counter** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。フロー内のバイト数またはパケット数を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect counter {bytes [long] | packets [long]}
```

```
no collect counter {bytes [long] | packets [long]}
```

シンタックスの説明

bytes	フローの確認されたバイト数を非キー フィールドとして設定し、フローの合計バイト数を収集します。
long	(任意) 64 ビットのカウンタを使用したフロー合計バイト数の収集をイネーブルにします。
packets	フローの確認されたパケット数を非キー フィールドとして設定し、フローの合計パケット数を収集します。

コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールド内の値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を取得できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

collect counter packets

このコマンドは、フロー内パケットが確認されるたびに増分される 32 ビットのカウンタを設定します。非常に長いフローの場合は、カウンタが上限値（約 40 億パケット）に達してラップする可能性があります。ラップが起これるようなシナリオを検出すると、通常キャッシュ タイプを使用したフロー モニタは、フローをエクスポートして新しいフローを開始します。

collect counter packets long

このコマンドは、フロー内パケットが確認されるたびに増分される 64 ビットのカウンタを設定します。64 ビットのカウンタがラップすることはまず考えられません。

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、フローの合計バイト数を非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes
```

次に、フローの合計バイト数を 64 ビット カウンタを使用した非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

次に、フローの合計パケット数を非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets
```

次に、フローの合計パケット数を 64 ビット カウンタを使用した非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets long
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
collect flow	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect interface	入力および (または) 出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、値を収集します。
collect ipv4	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect routing	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect timestamp	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
debug flow record	フロー レコードのデバッグ出力をイネーブルにします。
flow record	フロー レコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect flow

フロー方向および（または）フロー サンプラ ID 番号を非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてその値を収集するには、**collect flow** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。フロー方向および（または）フロー サンプラ ID 番号を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect flow {direction | sampler}
```

```
no collect flow {direction | sampler}
```

シンタックスの説明	direction	フロー方向を非キー フィールドとして設定し、フローが監視された方向を収集します。
	sampler	フロー サンプラ ID を非キー フィールドとして設定し、フロー モニタに割り当てられたサンプラの ID を収集します。

コマンドのデフォルト設定 このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

collect flow direction

このフィールドはフローの方向を示します。単一のフロー モニタが入力と出力の両フロー用に設定されている場合に最もよく使用されるフィールドで、入力と出力で 1 回ずつ、計 2 回監視されたフローを検出して排除するために使用します。

collect flow sampler

このフィールドには、フローを監視するときに使用するフロー サンプラの ID が格納されます。異なるサンプリング レートのフロー サンプラを複数使用している場合に便利です。Flow Exporter の **option sampler-table** コマンドを使用すると、コレクタが各フローについてスケールされたカウンタを計算できるようにフロー サンプラ ID をサンプリング レートにマッピングした上で、オプションレコードをエクスポートできます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、監視されたフロー方向を非キー フィールドとして収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect flow direction
```

次に、フローに割り当てられたフロー サンプラ ID を非キー フィールドとして設定し、フロー サンプラの ID を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect flow sampler
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
collect flow	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect interface	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect ipv4	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect routing	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect timestamp	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
flow record	フロー レコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect interface

入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてその値を収集するには、**collect interface** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。入力および（または）出力インターフェイスを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect interface {input | output}
```

```
no collect interface {input | output}
```

シンタックスの説明

input	入力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、フローから入力インターフェイスを収集します。
output	出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、フローから出力インターフェイスを収集します。

コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、入力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、入力インターフェイス値を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect interface input
```

次に、出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、出力インターフェイス値を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect interface output
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キーフィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
collect flow	フロー識別フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect interface	入力および（または）出力インターフェイスを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect ipv4	IPv4 フィールドを非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect routing	ルーティング属性を非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect timestamp	タイムスタンプフィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
flow record	フローレコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフローフィールドをキーフィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィックフローの方向をキーフィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキーフィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティングフィールドをキーフィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプフィールドをキーフィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポートフィールドをキーフィールドとして設定します。
show flow record	フローレコードのステータスと統計情報を表示します。

collect routing

ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect routing** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。ルーティング属性を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect routing {{destination | source} as [peer] | traffic-index | forwarding-status | next-hop address
  ipv4 [bgp]}
```

```
no collect routing {{destination | source} as [peer] | traffic-index | forwarding-status | next-hop address
  ipv4 [bgp]}
```

シンタックスの説明

<i>destination</i>	1 つまたは複数の宛先ルーティング属性フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローからそれらの値を収集します。
<i>source</i>	1 つまたは複数の送信元ルーティング属性フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローからそれらの値を収集します。
<i>as</i>	宛先 AS フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローから AS フィールドの値を収集します。
<i>peer</i>	(任意) ピア ネットワークの宛先 AS 番号を非キー フィールドとして設定し、フローからピア ネットワークの AS 番号の値を収集します。
<i>traffic-index</i>	BGP 送信元または宛先トラフィック インデックスを非キー フィールドとして設定し、フローから BGP 宛先トラフィック インデックスの値を収集します。
<i>forwarding-status</i>	フォワーディング ステータスを非キー フィールドとして設定し、フローからパケットのフォワーディング ステータスの値を収集します。
<i>next-hop address ipv4</i>	ネクストホップ値を非キー フィールドとして設定し、フローからネクストホップ情報を収集します。
<i>bgp</i>	(任意) ネクストホップ BGP ネットワークの IP アドレスを非キー フィールドとして設定し、フローからネクストホップ BGP ネットワークの IP アドレス値を収集します。

コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

collect routing source as [peer]

送信元 IP アドレスを使用してルータのルーティング テーブルを検索し、その結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を収集します。オプションの *peer* キーワードを指定すると、送信元ネットワークではなく、その次のネットワークが提供されます。

**(注)**

これは、このルータからパケットが逆向きにルーティングされる方法に基づいており、非対称経路では正しい結果が得られないことがあります。

collect routing destination as [peer]

宛先 IP アドレスを使用してルータのルーティング テーブルを検索し、その結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を収集します。オプションの *peer* キーワードを指定すると、宛先ネットワークではなく、その次のネットワークが提供されます。

collect routing source traffic-index

このフローの送信元 AS に基づいてトラフィック インデックス フィールドを収集します。トラフィック インデックス フィールドは、BGP によって伝播される値です。

collect routing forwarding-status

パケットが正常に転送されたかどうかを示すフィールドを収集します。このフィールドは 2 つの部分で構成され、最大長は 4 バイトです。現時点では、ステータス フィールドだけが使用されます。

```

+--+--+--+--+--+--+--+
| S | Reason |
| t | codes  |
| a | or     |
| t | flags  |
| u |        |
| s |        |
+--+--+--+--+--+--+--+
  0 1 2 3 4 5 6 7

```

Status:

00b=Unknown, 01b = Forwarded, 10b = Dropped, 11b = Consumed

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、送信元 IP アドレスを非キー フィールドとしてルータのルーティング テーブルを検索した結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を設定し、その 16 ビット AS 番号を収集する例を示します。

```

switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing source as

```

次に、宛先 IP アドレスを非キー フィールドとしてルータのルーティング テーブルを検索した結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を設定し、その 16 ビット AS 番号を収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing destination as
```

非キー フィールドとしてのフローの送信元 AS に基づいてトラフィック インデックス フィールドに値を設定し、その値をトラフィック インデックス フィールド値として収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing source traffic-index
```

次に、フォワーディング ステートを非キー フィールドとして設定し、そのフォワーディング ステート値を収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing forwarding-status
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
collect flow	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect interface	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect ipv4	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect routing	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect timestamp	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
flow record	フロー レコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect timestamp sys-uptime

TIMESTAMP SYS-UPTIME フィールドを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect timestamp sys-uptime** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。TIMESTAMP SYS-UPTIME フィールドを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

```
no collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

シンタックスの説明

first	フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づいてタイムスタンプを収集します。
last	フローの最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づいてタイムスタンプを収集します。

コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づくタイムスタンプを非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime first
```

次に、フローの最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づくタイムスタンプを非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime last
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キーフィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
collect flow	フロー識別フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect interface	入力および（または）出力インターフェイスを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect ipv4	IPv4 フィールドを非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect routing	ルーティング属性を非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
collect timestamp	タイムスタンプフィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
flow record	フローレコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフローフィールドをキーフィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィックフローの方向をキーフィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキーフィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティングフィールドをキーフィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプフィールドをキーフィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポートフィールドをキーフィールドとして設定します。
show flow record	フローレコードのステータスと統計情報を表示します。

collect transport tcp flags

TCP フィールドを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect transport tcp flags** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。TCP フィールドを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect transport tcp flags

no collect transport tcp flags

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンドモード フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、TCP フラグを非キー フィールドとして設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect transport tcp flags
```

関連コマンド	コマンド	説明
	collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
	collect flow	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
	collect interface	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
	collect ipv4	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
	collect routing	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。

コマンド	説明
collect timestamp	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
collect transport	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
flow record	フロー レコードを作成します。
match flow	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
match interface	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
match ipv4	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
match routing	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
match timestamp	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
match transport	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

commit

コンフィギュレーションセッション内のコマンドを適用するには、**commit** コマンドを使用します。

シンタックスの説明	verbose	(任意) 現在のコンフィギュレーション セッションをコミットして、結果の詳細を表示します。
------------------	----------------	---

デフォルト なし

コマンドモード セッション コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 現在のコンフィギュレーションセッションをデバイスに適用するには、**commit** コマンドを使用します。コマンドをコミットせずにセッション コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。コマンドをコミットせずに現在のセッションを削除するには、**abort** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、セッションをコミットする例を示します。

```
switch# configure session myACLs
switch(config-s)# commit
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	abort	セッションを削除し、セッション コンフィギュレーションモードを終了します。
	exit	コマンドをコミットせずにセッション コンフィギュレーションモードを終了します。

configure session

コンフィギュレーションセッションを作成または変更するには、**configure session** コマンドを使用します。

configure session *name*

シンタックスの説明	<i>name</i>	セッション名。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
------------------	-------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	Any
----------------	-----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	--------------------

例	次に、コンフィギュレーションセッションを作成する例を示します。
----------	---------------------------------

```
switch# configure session myACLs
switch(config-s)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show configuration session	コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示します。